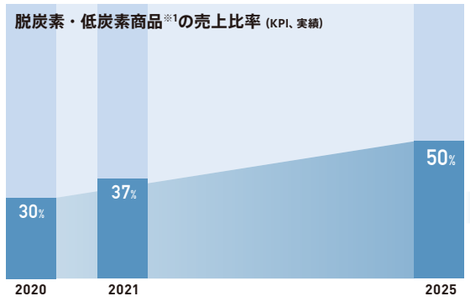
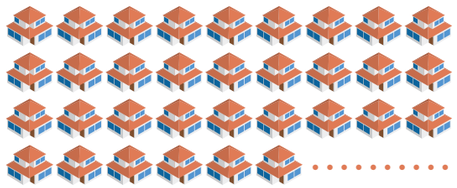
脱炭素・低炭素商品の売上構成比率を50%超に

当社は「2025年までに脱炭素・低炭素商品の売上構成比率を50%超にする」という目標を新たに掲げました。



目標達成によるCO_2削減量3,200万t(年間)
＝
約1,111万世帯の年間CO_2排出量※2



※1 コークス乾式消火設備(CDQ)、廃棄物発電設備、下水汚泥固形燃料化システム(ジェイコンビ®)、コージェネ設備、風力発電設備、バイオマス発電設備、地熱発電設備

※2 当社が国内外に建設した脱炭素・低炭素商品が産出した電力量を国内電力の排出係数等を用い、それぞれの設備特性を踏まえた稼働率を前提とし、試算したCO_2削減効果の値

国内外の製鉄所に150基以上を納入！

●コークス乾式消火設備(CDQ)

CDQは、コークス炉でつくられた赤熱コークスを不活性ガスで冷却し、その排熱で発電用の蒸気を発生させることで、熱エネルギーの回収による省エネ化を実現しています。国内外の製鉄所に150基以上を納入し、年間のCO_2排出削減量は約2,030万トン(2021年度)と、地球温暖化対策に大きく寄与しています。

カーボンニュートラルな未来を築いていくために

日鉄エンジニアリングは、
カーボンニュートラルへの取り組みを
成長戦略の中心に据え、
グループ全体の事業活動を通じて、
持続可能な循環型社会の実現に
貢献していきます。

脱炭素・循環型社会の形成を主たる事業ドメインとして展開

脱炭素へのトランジション

STAGE 3　新技術・新事業の本格的な普及ステージ
- 洋上風力発電(一般海域)事業加速
- CCUSの社会実装
- 水素社会の構築

STAGE 2　新技術・新事業の導入・拡大ステージ
- 洋上風力発電の拡大(港湾区域→一般海域への展開)
- CO_2分離回収技術(ESCAP®)の普及
- CCU(メタネーション等)、CCS実用化
- 水素インフラ整備(水素ステーション、水素パイプライン)加速
- グリーン水素・ブルー水素の社会実装開始

STAGE 1　既存の脱炭素・低炭素商品の強化・拡大 カーボンニュートラルの潮流を捉えた新技術・新事業の開発・実証
- 洋上風力発電(港湾区域)、地熱発電、汚泥燃料化、バイオマス発電、コークス乾式消火設備(CDQ)、廃棄物発電等の建設・操業
- 高効率エネルギー供給サービス(天然ガスコージェネ)

現在　2025　2030頃

エンジニアリング力を活かして、脱炭素社会に向けたさまざまな挑戦を

当社では30年以上前からCDQや廃棄物発電等の低炭素商品を開発・建設してきました。また、汚泥固形燃料化施設、コージェネ施設、地熱発電、風力発電、バイオマス発電といった比較的新しい商品も急速に普及が進んでおり、顧客の温暖化ガス排出削減に貢献しています。さらには、当社の事業の柱の一つであるO&M事業でも地球温暖化対策を意識した事業運営が行われています。一方で、当社自身のオフィスや工事現場でのカーボンニュートラル化も一層重要であり、今回のレポートではこれらの進捗状況を記載しました。社会からの期待、未来への責任に応えるべく、これらの取り組みを一層加速してまいります。

環境・エネルギーセクター
企画部　ゼネラルマネジャー
小野義広

関連ページはP24・25

Sustainability Report 2022

Contents

トップメッセージ　2

カーボンニュートラルな未来を築いていくために　4

日鉄エンジニアリングとSDGs　6

私たちは、SDGsの17目標の中で、事業活動の遂行を通じて特に大きく貢献できる6つを重点的に取り組むゴールとして掲げました。

特集記事

Case 01　石狩湾沖における日本初の〈ジャケット式洋上風力発電〉プロジェクト　8

Case 02　都市の強靱化に寄与する〈免制震デバイス〉の拡充　12

Case 03　ごみ発電による〈エネルギーの地産地消〉の展開　16

サステナビリティ基本方針　20

- 安全衛生　21
- 品質　22
- コンプライアンス　23
- 調達　23
- 環境　24
- 人財　26
- 社会貢献　28

会社概要　30

第三者意見　31